

第2章

【目指す子供の姿を五者で共有】実践例

学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組 ～荒尾市立桜山小学校～

子供たちに身に付けさせたい資質・能力を学校運営協議会で協議し、子供たちを主体とした地域学校協働活動を実践している。

学校運営協議会で子供たちに身に付けさせたい資質・能力を踏まえ、防災熟議の目的、方法、計画等を熟議します。



総合的な学習の時間で実施

子供たちがファシリテーターとなり、避難所運営について意見を出し合います。



総合的な学習の時間で実施



学校運営協議会委員と子供たちで避難所運営の改善策を練ります。

学校運営協議会で防災熟議の実践は、子供たちに身に付けさせるものだったか評価します。



総合的な学習の時間で実施



地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、当日は、区長、消防団、保護者等、多くの地域住民が参加しました。

○学校だけでは取り組むことが難しい「防災」について、地域と連携した学習を進めることで、より具体的・実践的な学習を進めるとともに、子供たちの自己有用感や自己肯定感を育てることができます。

○子供たちの学びを地域と共有することで、地域住民も高い意識をもって取り組むとともに、地域の活性化につながります。

○子供たちに身に付けさせたい資質・能力を学校運営協議会で協議・共有することにより、地域学校協働活動の取組が充実し、「社会に開かれた教育課程」の実現につながります。